

ミャンマーの豆類取引：そのリスクと展望

—THURA SWISS社特別レポート—

翻訳：(公財) 日本豆類協会

ミャンマーは、ASEAN地域の中で最大の豆類の生産国であり輸出国でもある。この特別レポートでは、豆類産業に関わるさまざまな担い手とその問題点を明らかにする。

はじめに

2012/13年にミャンマーは、190万トン以上の豆類を輸出したが、その相手国としてはインドへの輸出量が圧倒的に多く、UAE (アラブ首長国連邦)、タイ、ベトナム、そして日本がこれに続いている。ミャンマーの豆類取引は、重い歴史のルーツを持っている。取引は、英国がインドに直接輸出可能な市場を開始するために種子とインドの栽培者を連れて来た英国植民地の時代に始まった。1948年のミャンマーの独立と1962年のネ・ウィン将軍のクーデターで、多くのインド人は逃げ帰ることを強制されるが、取引は、依然としてインド市場に依存したままで続いた。

ミャンマーの豆類産業は、それ自身で国際的な評判を獲得したが、世界穀物価格の下落とインド市場への過度の依存が市場環境をより脆弱にした。もし、ミャンマーがより付加価値のある豆類の生産に重点を移

し、財政的、技術的な援助を通じて農家の経営状況を改善し、さらにより多くの民間及び公的セクターの研究開発 (R&D) を積み重ねることができたら、豆類産業は安定的に成長することができる。このレポートは、ミャンマーの豆類取引に興味を持った人々が、基本的な状況への理解を深めるために、豆類市場の現在の状況、潜在的リスクと将来展望について概要を取りまとめたものである。

1 現在の市場

ミャンマーは、長い間豆類産業に経済成長を依存していた。ネ・ウィン将軍が政権を握っていた1962～1988年に、全ての取引、特にケツルアズキ(マッペ)は、Myanmar Agriculture Produce Trading (ミャンマー農業生産取引公社) の下で政府によって直接取り扱われた。民間の豆類取引業者は、マッペ市場での取引を禁止されたが、このことはまさに今、マッペ市場がミャンマーの経済をサポートするためにどれくらい重要だったかを明らかにしている。

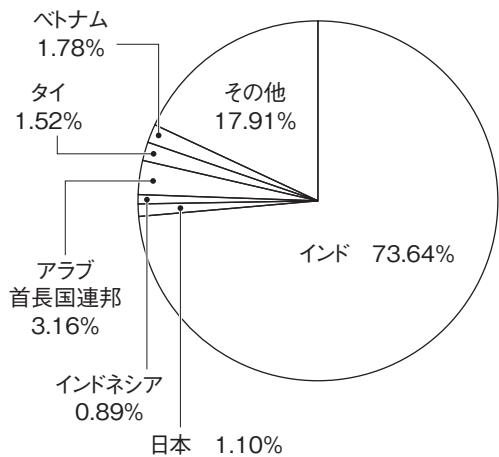
ミャンマーは、20種以上の豆類を生産しているが、国内消費が生産に比べかなり少ないため、これらの種類の多くは、輸

出のみの産品である。ミャンマーで生み出される主な豆類は、ケツルアズキ(マップ)、緑豆及びキマメで、マップが緑豆とキマメの合計の2倍以上と圧倒的に多い。ミャンマーの豆類は、3つの等級に分けられている。すなわち、最上級品質 (FQ)、特別品質 (SQ) と並みの平均品質 (FAQ) である。インド向けの大半がFAQであるのに対し、韓国、日本及び中国向けのような高品質市場は、FQ及びSQが多い。

ミャンマーの豆類は、通常、11月以降の冬期間に水稲作のあとの土壌中の残りの湿気を利用して栽培される。豆類の栽培期間は、通常、稲のような他の作物と比較すると非常に短く、およそ播種から収穫まで3~4ヵ月に過ぎない。11月からの冬作では、通常1月に収穫される。それよりも少し遅い冬作では、通常2月又は3月ごろ収穫される。

(1) ミャンマーの豆類の主な顧客

インドは、豆類では世界で最大の消費者で、現在ミャンマーの最大の輸出市場である。インドは、増大する人口と増大した穀物と油糧種子の生産と消費により、定常的に豆類の供給が不足し需要に対応できない国になってしまった。このため、インドは毎年およそ300万~400万トンの豆類を輸入しなければならなくなり、輸入量は、不利な季節条件によってさらに増加することもある。ミャンマーの豆類においては、インドが需要先、輸出先の主となっており、インドの状況は取引価格に大きな影響を及ぼす。

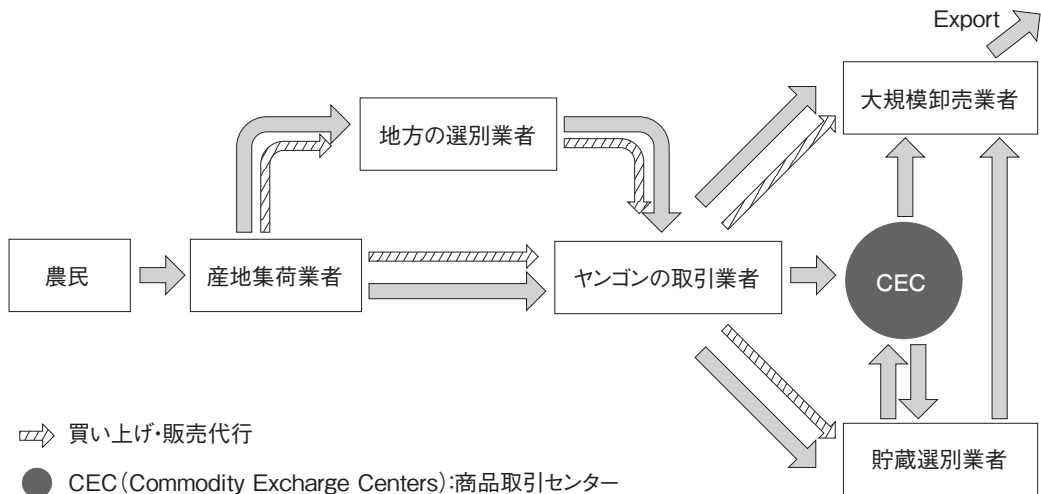


ミャンマーの豆類の輸出先国別割合
(2013年1~5月)

世界農業情報ネットワーク (GAIN) に基づく2013年1~5月のミャンマーの豆類の輸出先国別シェアのグラフをみれば、ミャンマーの豆類の主な消費者であるインドが、今後ともミャンマーの豆類供給に継続的に頼るだろうということは明らかであろう。

(2) サプライチェーン

ミャンマーの豆類取引のサプライチェーンには、いくつかの重要なグループ (農民、産地集荷業者、ヤンゴンの取引業者、大規模な卸売業者/輸出業者と代理店) が関係する。地元の専門家と話していると、サプライチェーンがしばしば複雑で理解しにくく、農民は大きな卸売業者とは直接の交渉をめったにせず、いくつか中間業者との取引をしていることが分かる。Myanmar Pulses, Beans & Sesame Seeds Merchants Association (MPBSSMA: ミャンマー豆類及びゴマ種子取引業者協会) の代表者と地方の輸出入の専門家の話を総合すると、



サプライチェーンの概要フロー図

豆類のサプライチェーン各段階の流れは図のとおりである。

ア 農民から地元の取引業者まで

収穫された豆類は、時々小口金融と耕作機械の使用を通して農民を支援する産地集荷業者によって、農民から買い上げられる。農民が産地集荷業者に金融や技術的な支援を頼るようになると、農民と産地集荷業者の関係は込み入ったものになる。産地集荷業者からお金を借りるとき、農民が産地集荷業者に彼らの商品売って借金を戻すというしばしば非公式の合意がある。産地集荷業者は価格を決め、そして、多くの搾取の余地を残す。さらにまた、豆類が収穫されたあと、農民はできるだけ早く負債を清算するために彼らの在庫の全てをしばしば急いで売ってしまう。より有益な期間まで販売を中止するか又は他の産地集荷業者のために取っておき、販売を遅らせれば、より多くの利益を得ることができる場合でも、農民はまずは負債を清算するために商

品を売ることがを主目的にせざるを得ないほど困難な状況に置かれている。

イ 産地集荷業者から大規模な卸売業者まで

産地集荷業者は、彼らの商品をヤンゴンの取引業者に再販するより大きな地方の選別業者に売る。輸出を主に扱う業者である大規模な卸売業者は、ヤンゴンの取引業者から買い取ってBayintnaung市場のような商品取引センターで取引を行うか、又は、直接卸売業者自身から買い取っている。豆類輸出のほぼ全ては、ヤンゴンから行われる。したがって、サプライチェーンの終点では、通常ヤンゴンの取引業者、大規模な卸売業者及び商品取引センターが重要な担い手であり、ヤンゴンが一番の商業中心拠点となっている。

ウ 卸売業者から海外市場まで

一旦農産物が卸売業者の手に渡ると、自身の農産物を選別調製する能力をもつ卸売業者は即販売可能な貨物 (RC) にする。さもなければ、農産物は再び他の選別調製

能力のある企業に送られるか、輸出に対応できる最初の卸売業者へ送り返される。未調製の豆類は保存するのがより簡単であるが、卸売業者もいつでも調製選別された即販売可能な貨物の在庫を確保しておく。貯蔵選別業者も、サプライチェーンの主要部分で役割を果たしている。大規模な卸売業者は直接彼らの商品を輸出するか、ヤンゴン又は工業地帯の中にある貯蔵選別業者にそれら売る。商品を貯蔵して、価格変動に従い年間を通じてこれら売る役割を果たすため、これらの貯蔵選別業者は取引にとって重要である。貯蔵選別業者は、しばしば投機売りに関与しているが、これは国際市場に供給される豆類のより安定した流通を保証する。

エ エージェント（代行業者）

豆類は、産地集荷業者から大規模な卸売業者まで持ち主が変わるので、この過程は非常に複雑であることが多い。取引には、大規模な卸売業者の代理として商品を買入れるのを業としている、売買の代行業者がしばしば関係しており、彼らは最大でも取引の1パーセント程度の健全な委託手数料をとっている。取引が中間業者を介して行う方式に大きく依存しているようになっており、農民と卸売業者の間の直接的なつながりを確立するために近い将来、中間業者を取り除くことは、難しいと考えられる。代行業者は、豆類産業を非常に熟知していて、しばしば、どこで買うべきか、いつ買うべきかを分かっており、彼らが取引をする卸売会社に対しアドバイザー又はコンサ

ルタントの役を果たす。農民にはめったに価格について交渉する機会がなく、収穫後の3~4ヵ月以内に売ろうと急ぐことがしばしばあり、中間業者に頼り切っていて投機市場にも参加しないうえ、交渉力を増すような効率的な農民組織もない。産地集荷業者、さらに大規模な卸売業者に至るまでのヤンゴンの取引業者は、ほとんど取引システムの中の一員としての役割を果たしているように見える。

(3) 現在の商品取引センター

ミャンマーには、Bayintnaung市場を始めとして国内に合計44の商品取引センターがある。ヤンゴンの北西部に位置するBayintnaung市場は、国の主要農産物の取引センターである。2009年以降、MPBSSMA（ミャンマー豆類及びゴマ種子取引業者協会）の下に、すべての国内と国際取引業務がこの市場で運営されることが義務付けられた。このため、この市場は、毎日何千もの相対売買を取り扱い、豆類取引にとって中枢施設になった。市場は、遅くまで活発であるが、豆類取引は、通常午前10時00分~午後12時30分の間でなされる。

(4) 現在の豆類の調製方法

豆類の調製は、通常2つの工程を含む。第一の調製は、豆の受け入れ、クリーニングと品質選別から構成される。第二の調製は、消費者が利用するための豆の準備からなっており、乾燥・包装、缶詰とスープ混合物、豆粉の製造が含まれる。ミャンマーでは、第二の処理は、最小限で調製が乾燥・包装で終わる。現在は、高品質色彩選別装

置が利用でき、そして、施設は人件費を減らすためにこれらの技術を導入するのが早かった。しかし、毎年ミャンマーから輸出される豆類およそ100万トンのうち、全ての調製工程を経ているのはわずか5～10パーセントに過ぎない。豆の洗浄と選別は、農家の段階で行われることがありえるが、資金や技術的支援の不足で農家段階ではほとんど行われていない。この段階の小規模装置は、しばしば遅れており、そして改修するには多くのコストがかかるために、これらの豆類の多くは地元の取引業者に未調製のままで送られる。この代わりに調製の多くは、選別調製施設で大規模な卸売業者によって輸出の直前に行われる。

2 潜在的リスク

豆類の取引が悪い方向に規制されており、豆類分野への全体としての体制強化や研究・開発への集中投資ができていないことは、より進んでいる米（コメ）の取引とは対照的にその発展を妨げている。

(1) 農民へのリスク

ア 悪天候の状況

農作物は、その生育のために適切な気象条件が不可欠である。時ならぬ降雨と干ばつは過去に物価に影響を及ぼし、大いに収穫の品質を減らして、頻繁な価格崩壊を起こした。2012年9月、雨量の不足は、ミャンマーでキマメの生産を20パーセント以上減らすなど、豆類の生産の減少を直接引き起こした。他の国の悪天候の状況もまた、ミャンマーの農家や取引業者をますます挑

発するかのように豆類の国際的な価格にも影響を及ぼした。2011年に、世界有数の豆類生産国、オーストラリアとカナダにおける悪天候と単収の減により、国際価格は急騰した。天候のリスクは、農業セクターで管理する生産リスクの中で最も難しいものの一つである。一部の発展途上国は、災害が起こったあと、保険業者が評価をするために穀物の産地へ出向くことを保証する伝統的な作物共済保険プログラムを採用した。特に天気指数に基づく新型の保険（インデックス保険）は、大きな可能性をもって他の発展途上国でも審理された。しかし、ミャンマーでは農民が利用できる作物共済保険が整備されていないため、農民は天候へのリスクにはとても弱い。ミャンマー政府は、民間の保険会社が国内で活動を開始するのを最近許可した。民間保険会社は、例えば、自動車、家屋と生命保険政策のようなカテゴリーに集中し始めるので、農民が利用できるような作物共済保険の枠組みが開発されるまでにはまだしばらく時間がかかる。

イ 研究開発の不足

豆類産業においては、研究開発（R&D）がほとんど実施されていないため、高品質品種の開発が遅れている。農民は、高品質品種の種子が高値で入手できないか、利用できないため、混じり合った種子や低品質の種子に頼らざるを得ない。したがって、2つの否定的な結果がある。第1に、農民は種子から高品質の生産物を生産することができず、第2に、生産された豆類の中で

大きな品質格差がしばしばある。ほ場管理のために農家の計画の要求に対応するためには、さまざまな農業機械と多くの肥料と農薬が必要となり、非常により高い経費が掛かる。地元の農民の間で種子銘柄が標準化できていないことも、品質管理を維持するのがより難しいことを意味する。

ウ 資本へのアクセスの不足

農民は、彼らの農場で栽培される豆類のために別々の貸付金を受領することができない。農民は、通常年間2~3作の作物を作付けするが、大部分のミャンマーの農民はそうするために十分な財政的な支援を受けることができない。地元の農民によると、1作期で労賃、肥料と種子経費を含む1エーカーにつき20万~30万チャット（約2万円）のコストがかかる。現在では、農民は年間8%の金利で、国営ミャンマー農業開発銀行（Myanmar Agricultural Development Bank）から、貸付金を受領することができる。貸付金計画は1エーカーにつき2万チャット（約2千円）で、貸すことが可能な最大額は10エーカー当たり20万チャット（約2万円）である。

今年開設が決められたミャンマー小規模金融銀行（MMB）はそれが資金調達の別のソースを農民に対して提供できると言うが、その高い金利は非常に論争的である。小規模金融は年間最高30%の金利を満たして、2万~3万チャット（約2~3千円）だけの小口金融を貸すだけだ。ミャンマーの小規模金融計画の多くは、開発中で、まだ民間の貸出源からの高い金利と政府出資の

貸出源からの米（コメ）産業に明確に焦点を当てたものである。すなわち、豆類産業の中に大きな改善があるとは思えない。

(2) ミャンマー輸出者への危険

ア 債務不履行のリスク

債務不履行のリスクは、主として悪天候と支払い方針に関して基準の欠如に起因する価格下落により、特にミャンマーの豆類産業において蔓延している。さらに、一般のリスクは、より洗練された取引システムの中のデリバティブを通して売買できない。まれなことではあったが、市場で取引されている豆類は、過去数年にわたって大きな不履行を受けた。2008年に、数人の大規模な卸売業者は、売り手に支払いをすることができないために、特別調査局の調査を受けた。卸売業者は、数億チャット（数千万円）も彼らの売り手に借りていた。卸売業者は、予測された高値で売り手に支払うと約束している非公式の協定を通して、500~1,000トンの豆を買った。在庫は、前もって買い手に届けられた。しかし、2008年末間近の物価が急落している中であって、買い手は、売り手に約束していた最初の高値で支払うことができなかった。売り手は彼らの在庫と支払資金の両方を失った。価格の下落が季節的な理由による部分的なものであったが、インドの輸入業者が製品のより高い価格を払うことを拒否したので、重大な豆類価格の不調に終わったため、通年では前年よりはるかに悪かった。さらにまた、2010年にミャンマー豆類及びゴマ種子取引業者協会

(MPBSSMA) は、販売のための口約束を禁止した。それでも、先物取引と口約束セールスは、これら両方をコントロールする厳しい基準の欠如しているため、依然として盛んに行われている。

イ インド市場による価格統制

インドは大規模市場であるため、ミャンマーの豆類商品価格は、インドの豆類価格に密接に関連している。例えば、4月上旬、インドからの強い需要は、マップとキマメの価格上昇につながった。ミャンマーの豆類輸出業者によると、インドの情報提供者は、Bayintnaung市場のような主要商品取引センターの中で、そして、豆類産業の中で直接取引を行っているインドの代表的な10の取引オフィスを通じて豆類在庫の規模を掌握している。ミャンマーの価格がインドの価格より高いならば、買い手は購入を拒絶する。この価格勝負は長年にわたって減少していたが、ミャンマーの取引業者は、売上を上げる試みにおいてインド市場に密接にその価格を連動させることを選択した。しかし、Union of Myanmar Federation of Chambers of Commerce and Industry (UMFCCI：ミャンマー連邦商工会議所連合) 当局は、インドとミャンマーは、近年、需要と供給のより安定な予測のために連携して、彼らの市場価格を保つために密接に協力して活動していると発表した。インドの豆類産業を理解することは、ミャンマー豆類産業におけるリスクをコントロールする上で決定的に重要である。

ウ 国際的な金融移動に伴う問題点

時代遅れの取引決済システムに加えて、買い手から売り手へ直接資金を移す際に、より多くの問題点に直面する。過去には、インドの会社は、ミャンマー外国貿易銀行のような地域銀行（一国内での取引のみを対象にした銀行）に対して押しつけられる制裁のためにミャンマーの銀行に直接に支払いをすることができなかったため、第三者会社、大部分はシンガポール会社を通して支払いをしていた。中間業者を通して進行しなければならないことによって、委託手数料が差し引かれて、輸出業者は支払いの全額を受領することができず、結局農民の側で在庫の相場以下の値をつけることもあった。過去10年間にわたって、2つの国営の銀行、ミャンマー投資商業銀行(MICB) とミャンマー外国貿易銀行(MFTB) だけは、取引先銀行が海外であって、このように外国の買い手からの大きな支払いを扱っていた。しかし、多くの他の民間銀行は現在海外との接続を樹立しており、そして、彼らが信頼性と良い管理を示すことができれば、外国への送金は異なる銀行からよりもずっと滑らかに競争料金で行うことができるが、まだ時間かかるだろう。シンガポール銀行への依存の長い歴史による国際的な振替ルート改善にもかかわらず、ミャンマーから他の国の銀行への金融の直接移動を可能にするため制度改革をするにはまだ時間がかかる。多くのミャンマーの取引会社は、完全に国内銀行に金融移動を頼ることをまだ望んでいない。

エ 弱いロジスティックス・ルート

ミャンマーのロジスティックス・システム（産出地点から消費地点に至るフローと保管を効率的に行う一連のプロセス）は、まだとても弱い。ロジスティックス・パフォーマンス・インデックス（LPI）によって、ミャンマーは、2012年に155カ国中133位であった。インドへのミャンマーの輸出は、主としてヤンゴン港からの海上取引に依存している。インドへの主要な出入口は、インドマルチ商品取引所（MCX）（世界最大の商品取引所の1つ）があるムンバイである。インドへの海上取引は、しばしばシンガポールを通じて行われる。豆類輸出のほぼ90パーセントは、海上輸送を通してなされるが、いくらかの輸出は、国境取引で中国及びインドともなされる。主な都市、特にヤンゴンからミャンマー・インド国境の取引ステーションまでの内陸の輸送ルートは、非常に荒廃している。政府は、現在まで、Tamu-Mizoram国境駅（東北インドを北西ミャンマーとつなぐセンター）で両側の貿易を促進する努力をしていた。しかし、長さ160kmのTamu-Kaletwa-Kalemyo-Mizoram道（別名：友好道）は、本格整備に大きなインフラ開発が必要で、大量の降雨のために毎年一定期間に使われることができない。その上、政治的に不安な東北インドにあって、豆類輸出業者は、その取引の相対的な速さにもかかわらず国境で取引を行うのをしばしば嫌う。ヤンゴンからTamuの国境に着くためにおよそ1日又は2日かかるが、一方、船上取引ではヤンゴン

港からChennaiまで5日間、そして、ムンバイまで2週間はかかる。国境取引ステーションへの輸送とともに、卸売業者は、ヤンゴンにおいて地方の会社から取引センターや倉庫業者へ彼らの商品を移すとき、国内の高い輸送コストの問題に直面する。

(3) 輸入業者へのリスク

ア 強い品質管理の欠如

ミャンマーの豆類産業のもう一つの鍵となるリスクは、高度な品質管理が全くできていないことである。現在では、Société Generale de Surveillance（SGS：検査総合会社）、ミャンマー検査試験サービス（MITS）と海外貨物検査社（OMIC）は、輸出の前にサンプルをテストすることに対して責任がある重要な機関である。しかし、サンプルの検査がしばしばいい加減に行われることがある。場合によっては、卸売業者と取引業者は、全部の商品が厳重な品質検査なしで買い手に出荷されるのを黙認してもらうために、自分自身は安い所得の構内検査官に賄賂さえ与えるかもしれない。贈収賄はまだミャンマーの基幹産業の多くで盛んに行われており、もし贈収賄と腐敗が規制すべきものであれば、ビジネス倫理的原則を教えることは完全に必須である。ミャンマーの輸出入の専門家によると、いくらかの豆類輸出業者が国際標準に適合するように商品の重さを増やすために岩の小さい粒子をブラックマッペのような豆に加えるような事件が時々ある。標準化している機関が出荷される商品の全てをチェックすることができるというわけではないの

で、だまされた膨大な量の商品が追跡できずに流通してしまう。このような商品が買い手に届いても、商品の実際の品質は提示された代表サンプルの検査結果を反映していない。1人の輸出者の非倫理的な行為がミャンマーの豆類市場の全イメージに影響を及ぼすので、これらの減多にない不正行為は依然として豆類産業にとってのリスクである。

イ 時代遅れの輸出決済システム

現在では、ミャンマーからの豆類の輸出のための金融業務は、事前のシステムでTT（電信為替）を通して実行される。支払いのこのシステムは、関連するリスクのため、国際的な買い手にとって非常に不都合である。国際的な買い手のためのリスクは、最初の商品サンプルや取引過程での商品損失と本当の商品が一致しないことを含む。事前のシステムのTT（電信為替）を通して、買い手からの支払いは、出荷されている商品に先立ってなされる。買い手商品が彼らのそれぞれの目的地に着くまでサンプルと本当の商品の違いがわかっていないので、売り手への事前販売によって示される小さなサンプルに頼ることができるだけである。支払いのこのシステムは、売り手のためにその明らかな有利さのため、ミャンマーで何年もの間そのままであった。売り手は、彼らの支払いが適切であることを確認とすることができ、一度、商品が出荷されれば、彼らは、その後商品に起こることに対する少しの責任も保持する必要はない。

(4) 将来の傾向

ア 農民のためのより多くの資金提供

ミャンマー政府は、2015年に国が後押しする小規模金融開始を発展させる計画を発表した。新しいプログラムに対する期待は高い。他の貧困縮小方針とともに、U Thein Sein大統領は、小規模金融を国のための課題を解決する重要な領域と確認した。2012年11月に、政府は、この部門のための法的枠組みを構築しようとする新しい小規模金融法を承認した。新しいプログラムでは、特に、農村地帯の家族への1エーカー当たりの支援に2.5チャットだけ支払えば、米国（100米国ドル以上の）10万チャットの少量資金を貸す用意が整っている。借り手が期限内に彼らの貸付金を返済することができるならば、さらに50万チャットを借りる更なる選択権がある。過去に担保がない借金を法律が禁止したので、ミャンマーの小規模金融計画は、ほとんど農村地域で利用されなかった。しかし、もしプログラムがうまく管理されることがわかり、そして、農民は貸付金返済について期限等の規則を守ることができるのであれば、それには豆類取引を含む農業状況を改善するのを助ける可能性がある。これらの小口金融を通して、農民は機械を更新することができ、農地のより大きな区画を買うことができ、そして、全体的に作物生産を促進するために、肥料と農業に投資できるであろう。過去に、27の私企業が、豆類産業における生産者に直接援助するためにつくられた。しかし、利益への懸念は、

効果的な援助イニシアティブをつくろうとする会社の能力を弱めた。政府出資の小規模金融プログラムは、過去の農民支援スキームや新しいMMB銀行の高利貸付スキームに比べると確かな改善である。小規模金融プログラムが農民の生計を本当に改善する際に十分かどうかはまだ分からないが、それでも、低い利息に対するどんな財政的な返還イニシアティブでも積極的な動きとみなされる。

イ 新しい商品取引所の下でのより円滑な業務

国際標準に準拠した新しい商品取引センターが、2013年末までに稼働開始するとのうわさがある。プロジェクトは、Myanmar Agricultural and General Development Public Ltd（ミャンマー農業及び総合開発公社：MAGDPL）（Thilawa公社の子会社）によって実行される。MAGDPLは、ミャンマー豆類及びゴマ種子取引業者協会（MPBSSMA）のメンバーによって設立された。ミャンマーの輸出業者は、ミャンマーのブラックマップとキマメがインドの商品取引所で自由に取引するのを許された。2001～2006年の間に、高い収益性を経験した。現在の交換センターの近代化と新しいセンターを整備する計画で、ミャンマーは豆類の取引をより集積することができ、そして、業務経費を下げ、農民、売り手、代理人と取引業者の間のより良い情報アクセスと発信を可能にする。豆類取引が必要とする一つの鍵となる重要な改善は、より良い連携と組織化である。新しい商品取引

所の中のいくつかの鍵となる変化の計画がすでに発表されていた。取引をより安全にするために、売り買いへの興味を示すすべての外国と地元の取引業者は、最初に取り所の会員に応募する必要がある。さらにまた、メンバーの間の取引量は、関係会社の銀行口座に預けられている金額に基づいて上限が決められる。その上、より良い品質管理を確実にするために、商品取引所で豆類を売りたい人々は、品質基準検査機関（MITS、SGSとOMIC）から品質承認の証書を得る必要がある。銀行からローンを受けるとき、売り手は担保として証書を使うことができる。新たな商品取引センター、まだ計画段階であるが、買い手と売り手をまとめるのを助けることができ、両者がリアルタイムで市場価格にアクセスすることができる。

ウ 輸出市場拡大のより多くの機会

今年の初めから、ミャンマーへの国際的な経済制裁はゆっくり解かれた。EUは2013年4月にミャンマーにその制裁の全てを終え、米国はほんのわずかのターゲットとされた制裁だけを残していた。制裁の解除は、ミャンマーの豆類輸出量の大きな変化をもたらさなかった。インドはまだミャンマーの一番の顧客で、そして、多くのEU諸国並びに米国は、豆類の消費国でない。しかし、輸出量の変化はなかったが、制裁解除は豆類の金融取引業務をより容易にした。以前は、たとえば、米国企業がミャンマーとの取引をしようとすると、外国からの支払いは凍結されており、そして、ミヤ

ンマーの輸出業者はアクセスすることができず、これが産業の発展を大幅に阻害し、経済制裁国へ製造業者が売のを落胆させた。支払いは、シンガポール経由で、シンガポールの銀行への財政援助のための別料金をかけて時々行われた。しかし、制裁が解かれたことで、支払いの仕方はずっと容易になるかもしれない。さらに、最近のEUによる一般特惠関税制度（Generalized System of Preferences : GSP）の復帰措置に伴い、豆類輸出市場は若干成長するだろう。GSP（それは2013年7月19日に実施）は、ミャンマーに欧州市場に対する関税や割当のフリーアクセスを与えている関税特惠スキームである。米国は、ミャンマーにGSPを付与することも検討している。伝えられるところでは、ミャンマーの豆類商は、アジアの市場の外の地域としてアフリカ、ヨーロッパ及び米国を目標とし始めたが、国際的な品質基準を満たすため更なる改善策が必要となっている。EUや米国への取引が円滑になれば、ミャンマーがそれらの市場のためにより高品質製品の開発に重点を注ぐことができる。

エ インフラストラクチャーの新たな発展

海港を含むKyauk Phyu経済特区の発展に伴い、ミャンマーには、インドだけでなくバングラデシュや中東市場への輸送リンクをよりうまく改善することができた。これら二つの地域は、ローカルな消費と需要が比較的高い潜在力のある豆類市場とみなされる。これで北部ミャンマーの内陸輸送ルートも有望になるであろう。Kaladan

Multi-Modal Transit Transport Project : Kaladanを多様媒体輸送プロジェクト（船便でKolkataの東部インドの海港をミャンマーのSittwe海港とつなぐプロジェクト）と名付けられた別の2億1400万ドルプロジェクトは、2015年までに完成する予定で、Rakhine州の深い海港とインドの北東のMizoram州からミャンマー西部のChin州までハイウェイ網と内陸の水路でつなぐ。インド政府によって資金を供給されたプロジェクトは、両国間の相互取引を構築する戦略的なステップとして機能するよう展開されてきた。プロジェクトは、透明度の不足のために地元住民の抗議を受けたが、インドとの豆類の国境貿易のための内陸輸送のもう一つの手段を加えた。プロジェクトは2015年に完成することになっており、インフラ道路の整備はゆっくりとではあるが進んでいる、そして、これらの変化は、豆類産業とミャンマーの輸出市場の成長にとって重要である。

(5) 更なる推奨策

ア 商品取引のより適正な規制

特に商品先物取引に関しては豆類産業の債務不履行リスクは、より厳しい規則でよりよくコントロールされるだろう。多くの商品先物取引がまだ行われているが、ヤンゴン商品取引所は商品先物取引を思いとどまっている。“誓約で後払い”の時間窓口を制限するような簡単な規則を制定することでさえも、豆類産業が数人の大きな取引業者の債務不履行で崩壊しないことを確実にすることに効果的であろう。多くの先物取

引で、買い手は商品に専念して、1~2ヵ月の間で実際に支払いをしなければならない、そうしないと投機を可能にするが大幅に債務不履行のリスクを高める。支払いが商品を買うと誓っている買い手の誓約期間の10日以内になされれば、作物価格の極端な変動の機会は大いに避けられるであろう。また、さらなる債務不履行のリスクを減らすために、取引当事者間の敷金は、特に主要穀物の減収又は国際価格の下落の場合の大きな先物取引においては、是非とも必要で、敷金の実行は、単に信用のみに頼っている多くの取引業者にとっては最小限のものであり、契約を保証する機会を確実にするだろう。

イ 良質な市場を目標

インドは、現段階でミャンマーの唯一の未調製の豆類市場である。ミャンマーが一貫した缶詰包装による加工処理や直接消費者に販売する製品の開発に焦点を合わせるのであれば、豆類産業は国際的なより広い範囲の顧客を得ることができる。現在、Magwe（マグウェー）の1つの工場は、シティマート（City Mart）のような全国展開のスーパーマーケットで売られている高品質ピーナッツ・バーの生産を開始した。しかし、これは国内消費だけのためものである。機械化と基盤強化への正しい投資がなされることのできるならば、ミャンマーが付加価値製品の輸出を拡大する高い可能性がある。最高品質の豆のみの需要がある韓国、日本、中国のような他の輸入業者を対象とするのであれば、将来に向けてミヤ

ンマーの高付加価値な豆類部門を開発しておくことが必要である。しかし、ミャンマーが加工処理の能力の拡大が現在できないので、輸出業者は、インドへの完全な依存を減らすことを願って市場を拡大するためにより良い品質管理と商品の見掛け品質の改善に集中しなければならない。主な品質管理機関であるSGSミャンマーは、彼らの制御方法でより厳しくなり、その結果、真の調査が行われており、ミャンマー豆類の品質が最高レベルにあることを証明するもう一つの国際的品質管理機関の指導に従って働いている。しかし、より重要なのは、検査に伴う不正行為と贈収賄を最初から制御するのを確実にするクリーンなコーポレート・ガバナンスと経営倫理の原理は、ミャンマーの重要な産業全体を通じて浸透すべきであるということである。

ウ 研究開発（R&D）への投資の増加

ミャンマーでは、農業科学者1人当たりの国費とその研究強度比の両方が世界で最も低い。一般に、農業の研究開発は民間と公的なセクターの両方で行われているが、ミャンマーの民間アグリビジネスには、研究投資を十分に育て提供する能力がない。このように政府による充実した支援は、国際的な資金提供者による支援とともに重要である。研究開発計画は、豆類の作物改良戦略（農民への配布のための能力の高い、市場向きの種子生産を含む。）に集中する必要がある。ミャンマーへの制裁解除と支援再開に伴い、国際支援による研究開発計画の増加が現在現実的なオプションとなっ

ている。過去には、イスラエルのような国は、Yezin農業大学からの研究者を訓練することによって、ミャンマーで農業研究プログラムを支援した。しかし、ミャンマーへ帰還する科学者は、低い国内収入と利益のため、多くはその代わりに外資系の会社で働くほうを選択した。国際的な資金援助は必要だが、その基盤として研究開発計画の効果的な継続のため州がスポンサーの資金提供もまた必要である。その上、豆類の取引に資金的及び技術的な援助を提供するための公的会社がさらに設立された。この公的会社は、研究開発の取組みを増やすため、政府と連携して働くことができる。政府は必要な専門知識と連絡先を持っているが、ひどく資金が不足している。豆類専門会社は、高品質の種子と小口金融を農民に提供することができる。彼らは、農民がより良い収益を得ることを確実にするために、より高い価格で商品を買戻すこともできる。MAPCO (Myanmar Agribusiness Public Corporation (ミャンマー・アグリビジネス公社):現在ミャンマーの米(コメ)取引に対して商品の買戻し等の援助を行っている機関)は、効率的なモデルとして利用することができる。さらにまた、ミャンマーにおける民間部門の研究がまだ小規模であるが、民間部門からの支援の可能性も増加している。例えば、2006年に、Myanmar Agritech社 は、SPA (Serge Pun&Associates) Myanmarの支援で10万エーカーの耕作地帯Maw Tin Estateを設立した。この地帯は、農業の研究開発を支

援して、一連の作物の大規模生産を可能するのが目的である。アグリビジネスに関心をもつ民間部門の他の大企業は、全体的なミャンマー農業関連産業の競争力とともに彼ら自身の会社の全体利益を増やすために農業研究開発イニシアティブを増やすことで利益を得ることができる。

エ 農民のための作物の多様化

農業の多様化は、各々の農民によって生産されるいろいろな農産物の種類を増やすことを意味する。個々の農民は、農場と農家以外の収入源を広げて、悪天候と季節状況によるひどい凶作のリスクを減少させるために経営を多角化することができる。一つの季節の悪天候で作柄が悪いと次の季節の収穫に期待する。ミャンマーの土壤は、いろいろな作物の多様性に応える能力に優れており、そして、農民はこの利点に投資して、いろいろな種類の作物を増やさなければならない。さらにまた、農業共済保険スキームがまだできてはいないので、作物の多様化は価格ショックと需要の急速な変化に対する防護手段でもありえる。ミャンマーの豆類農民のための多様化は、2種類あるだろう。水平的多様化(栽培作物の拡大)は、新しい農作物を採用することによって起こるだろう。単に豆類に頼る代わりに、農民は彼らの主な豆類作に加えて水稻や他の重要作物を作付けすることができる。インフラ支援が可能であれば、垂直多様化(流通加工への経営拡大)は販売、貯蔵と加工のような農作業以外の活動に起こることもありえる。

オ 他の組織の援助方法

豆類の生産性と品質を強化するために、小口金融とは別の政府財政援助イニシアティブが推薦される。財政支援は、生産投入を強化するための作付け開始前だけでなく、収穫時の特に農業価格が大きく下落した際にも必要である。例えば、ミャンマーは、予め理想的な作物価格が決められる米国の価格水準をモデル化し、もしも市場価格が理想的な価格水準よりも下がるならば、政府は農民に差額を支払う。さらにまた、他の組織改善は、豆類の品質改善のために、国内又は、国際的農業機関からもたらされる。ミャンマーの豆類生産者は、高品質製品のために必要とされる最新技術にアクセスすることができない。政府は、国の主要な輸出農産物として、米（コメ）生産を優先する。技術的支援を豆類生産者に提供する際に、外国の専門知識の導入が非常に奨励されるだろう。

- ①最新の技術を採用することに農民を教育すること
- ②土、水及び農薬の試験と新しい技術の開発
- ③肥料、種子、灌漑水等々のような農業資材の配布に対する支援

- ④豆類の加工だけでなく、生産に必要な機械・設備の提供

3 結論

米（コメ）は、ミャンマーの主要な輸出産業であったが、多くの財政的や技術的支援は、それだけのために実施されてきた。しかし、豆類産業は同じ利益を享受していない。現在の豆類取引の主要な問題は、民間、公共の両部門からの研究開発の不足と考えられる。高品質種子の提供や収穫量の改善、農業条件の体質強化のための方法を見つけることが必要である。援助プログラムによる国際支援は、米（コメ）セクターだけでなく豆類セクターにも使われなければならない。国際舞台でミャンマーの豆類のブランドイメージを改善することも重要である。ミャンマー豆類の食用の品質はとて高い（味が良い）が、その外見を改善して、高品質の商品を生み出すことが必要である。豆類取引には、ミャンマーにさらに利益をもたらす可能性がある。道路整備とロジスティックス発展のような鍵となるインフラ変化、金融と銀行システムへの改善とミャンマーの商品取引センターの近代化に伴って、豆類産業はさらに発展するだろう。